

千里の鳥・万博の鳥(第98回)「リュウキュウサンショウクイ」(2021年1月)

あけましておめでとうございます。

コロナで探鳥会の再開が何時になるかわかりませんが、千里タイムズ紙に「千里の鳥・万博の鳥」を掲載していただくことで、明るい年になればと思っています。

早速、有賀憲介氏から万博初記録の鳥、「リュウキュウサンショウクイ」の写真を送っていただきましたので、紹介します。

サンショウクイは体長20cmのスマートな夏鳥、春に南国から繁殖地に渡る途中に、万博公園など都市近郊の樹林で休んでいて、特徴ある声「ヒリヒリン、ヒリリン」と鳴きながら飛びまわっている。この鳴き声から「山椒は小粒でピリリと辛い」という諺を連想して、サンショウクイと名付けられた。しかしサンショウクイは昆虫中心の動物食であり、山椒の実を食べるところを見たことが無い。

今回の主役はその亜種の一つリュウキュウサンショウクイ、名前の通り日本の南西諸島(琉球)を中心に留鳥として生息していた。1970年代までは南九州以南にのみ生息していたが、2010年ころには九州北部・四国・紀伊半島においても確認されるようになった★1。更に2017年には東京・埼玉でも確認されたと話題になったことがあった。

大阪府では2011年に亜種リュウキュウ……が大阪城公園で観察され、2015年には高槻市・茨木市などで観察されていたが★2、今回ついに、万博公園にも登場したことになる。

亜種サンショウクイは夏鳥なので冬は越冬地(東南アジア)に南下し大阪近郊にはいないが、亜種リュウキュウ……は留鳥で冬に観察できるのが特徴である。亜種リュウキュウ……が北上した理由として、1980年代に亜種サンショウクイの生息数が減った時期があり、空いた地域に亜種リュウキュウ……が入ったと推定されており★1、それに地球温暖化も追い風になったと思われる。

種(しゅ)サンショウクイには、上記の2亜種がある。亜種とは種として同じ遺伝子をもちながら、住む地域の

気候や、生息環境の植生などによって、身体の色や習性に違った特色がでている状況をいう。例えば亜種サンショウクイは体上面が灰青色で、額から眉斑の白色部が広いのに対し、亜種リュウキュウ……は体上面の黒味が強く、額から眉斑の白色部が狭い。

2亜種が最も違うのは生息範囲、亜種サンショウクイは繁殖地が日本などで、越冬地が東南アジアで遠距離移動をするのに対し、亜種リュウキュウ……は南西諸島だけでなく、北上した四国・本州でも留鳥となりほぼ同じところに住んでいる。

今冬に入って万博公園で越冬し始めた亜種リュウキュウ……が春まで残り、営巣・子育てを始めるかどうか、万博公園では亜種サンショウクイの繁殖がなかっただけに、楽しみに期待している。

お正月になり万博公園のような都市公園だけでなく、近隣の池や樹林にも冬鳥が勢ぞろいし、落葉樹の葉が落ちて明るくなり鳥が見やすいことから、バードウォッチングが一年中で最も楽しい季節となった。

多数の人が集まり三密が懸念される探鳥会は、「1月もお休み」にせざるを得ない。三密を避けマスク着用、ポケットカイロを忍ばせて、身近なご自分のフィールドを歩くと、鳥たちが歓迎してくれるので、ぜひ一人バードウォッチングを楽しんでくださるよう。

**** 写真 ****

種名:リュウキュウサンショウクイ

撮影日:2020年12月18日

場所:万博公園

撮影:有賀憲介

(参考文献)

★1 三上・植田:西日本におけるリュウキュウサンショウクイの分布拡大 2011Bird Research

★2 大阪府鳥類目録2016 日本野鳥の会大阪支部

